

短 報

群馬県未記録植物数種について

大 森 威 宏

群馬県立自然史博物館：〒370—2345 群馬県富岡市上黒岩1674—1

キーワード：群馬県，植物標本，県内未記録種

はじめに

群馬県立自然史博物館が寄贈を受けた植物標本コレクションの中には，群馬県在住の研究者に気づかれなかったために県内のフロラを扱った文献に引用されていないものも含まれる。特に，明治末期から昭和初期にかけて群馬県東部を中心に採集活動を行った栗原尚次氏（故人），1960～1980年代に吾妻郡嬭恋村の植物をくまなく採集した滝沢敦男氏（故人）のコレクションなどの中には新旧各版の群馬県植物誌（戸部ほか 1968；戸部ほか 1987）などに記録のない種の標本が含まれていることが判明した。本報では群馬県立自然史博物館に寄贈された標本コレクションの中から，従来群馬県から記録がなかった植物を報告する。

1 クロタマガヤツリ *Fuirena ciliaris* (L.) Roxb. : 図1
 クロタマガヤツリは，わが国では中国地方，四国，九州，琉球のほか関東地方から知られている湿地性の草本である（大井 1982）。今回，「大正十一年十月一日 上州館林」のラベルが貼付されたクロタマガヤツリの標本が栗原尚次氏の標本コレクションの中から見いだされた。標本シリーズのメモには「館林町ヨリ多々良沼ノ間」とあり，さらにラベルに記入された採集日・採集地は栗原氏が所属していた（田中伸幸氏の私信による）東京植物同好会の多々良沼への採集会に一致する（吉井広始氏の私信による）。クロタマガヤツリは群馬県（戸部ほか 1968；1987）や館林市（松沢 1995）の植物目録には掲載されておらず，カヤツリグサ科植物の分布を県別に集計した最近の資料（野口・安嶋 1995）でも群馬県から記録はないが，館林市と隣接している埼玉県北部の低湿地に分布し（伊藤編 1998），さらに栃木県芳賀町からも記録がある（関本 1941）。このため，多々良沼を含む館林とその周辺の低湿地はクロタマガヤツリの分布域に含まれていた可能性が高い。しかし，栗原氏がク

ロタマガヤツリを採集した一帯は市街地に近く，早い時期から農地や宅地の造成が行われた。このため，群馬県植物誌の証拠標本が集められた1950年代までには絶滅したものと考えられる。さらに，館林周辺の水田ではムギ類を裏作とする二毛作が行われ，稲作期以外は完全に干上がることも，湿地を好むクロタマガヤツリがその後記録されない理由として考えられる。

証拠標本：GMNH BS-85042 群馬県館林市多々良沼
 1922年10月1日 栗原尚次氏採集。

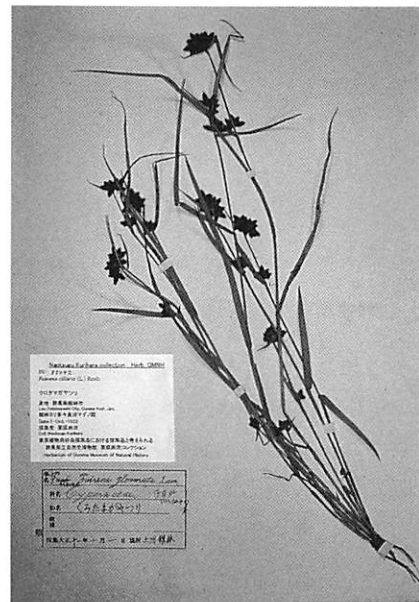


図1 クロタマガヤツリ標本 GMNH BS-85042

2 ホザキシモツケ *Spiraea salicifolia* L. : 図2

ホザキシモツケはわが国では北海道のほか，栃木県日光市戦場ヶ原および長野県霧ヶ峰から記録がある落葉低木である（北村・村田 1979；大橋ほか 1989）。群馬県嬭恋村から採集されたこの植物の標本が滝沢敦男氏のコレクションから見いだされた。霧ヶ峰を含む中信高原一帯と嬭恋村の高原は気候が類似し，また，アサマフウロ，カラフトイ

バラ、イヌカモジグサなど共通して分布する種も多い(戸部ほか 1987; 諏訪の自然誌・植物編編集委員会 1981)。このため、嬭恋村のホザキシモツケは自然分布のものである可能性が高い。自生地は火山山麓の小河川に近い高茎草原ないし低木群落であり、この点も他のホザキシモツケの生育環境と一致する。また、増田公平氏の私信によると、嬭恋村にはこの標本の採集地点以外にもホザキシモツケが1ヶ所現存している。また、嬭恋村やその周辺の火山地帯の沢沿いには低木や草本を主体とした湿地が各地にみられるため、精査すればホザキシモツケの自生地はさらにみつかれる可能性がある。盗掘防止のため、この植物の詳細な分布地点の公表は控える。

証拠標本: GMNH BS-70033 群馬県吾妻郡嬭恋村
1981年8月13日 滝沢敦男氏採集。



図2 ホザキシモツケ標本 GMNH BS-70033

3 ツルタチツボスミレ *Viola grypoceras* A. Gray var. *rhizomata* (Nakai) Ohwi: 図3

ツルタチツボスミレは日本海側の山地帯に分布するタチツボスミレの変種で、秋田県から岡山県までを分布域とする(いがり 1996)。滝沢敦男氏のコレクションの中から群馬県嬭恋村産のツルタチツボスミレの標本が見いだされた。この植物は多雪地のブナ林を主な生育場所とするため(いがり 1996)、日本海型のブナ林が存在する(片野ほか 1987)群馬県北部には広く分布している可能性がある。今まで群馬県からツルタチツボスミレの記録がない理由として、日本海側に分布が偏り、タチツボスミレやコタチツボスミレと混同されやすいため、この植物が十分認識されていなかったことが原因として考えられる。

証拠標本: GMNH BS-70902 群馬県吾妻郡嬭恋村バラギ 標高1200m 1983年5月5日 滝沢敦男氏採集 村田源氏同定。

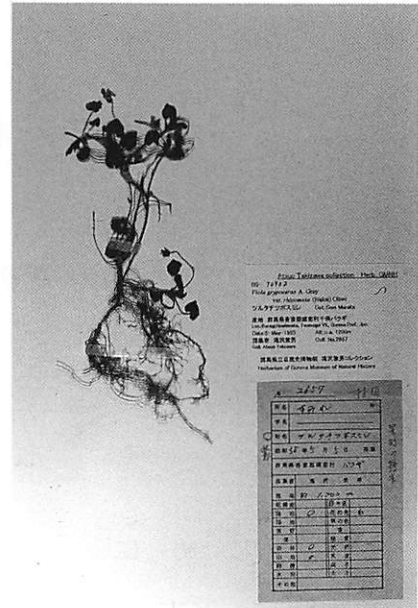


図3 ツルタチツボスミレ標本 GMNH BS-70902

4 コスズメノチャヒキ *Bromus inermis* Leys.

コスズメノチャヒキはヨーロッパからシベリア原産のイネ科の帰化植物で、北海道に多く、そのほかでもまれにみられる(長田 1989)。滝沢敦男氏のコレクションの中から群馬県嬭恋村バラギ産の標本が見いだされた。この地域は牧草地やキャベツ畑が広くみられ、そこに播種される作物や牧草の種子に混入したものが発芽・成長したと考えられる。その後、この地域は大規模な開発が行われ、この帰化植物の現状については不明である。近年牧草地は外来牧草種子による人工草地となり、また、道路工事やリゾート開発、河川改修に伴って外来牧草種子による緑化が行われる点、さらに、嬭恋村が北海道同様夏季冷涼であることを考慮すると、この植物が今後も侵入・生育する可能性はある。

証拠標本: GMNH BS-70529 群馬県吾妻郡嬭恋村干俣バラギ 1983年8月20日 滝沢敦男氏採集 村田源氏同定。

謝 辞

神奈川県立生命の星・地球博物館・勝山輝男氏には本校作成にあたりアドバイスをいただいた。増田公平氏にはホザキシモツケについての情報をいただいた。また、高崎経済大学附属高等学校・吉井広始氏、高知県立牧野植物園・田中伸幸氏には東京植物同好会についての情報をいただいた。感謝の意を表します。

引用文献

- いがりまさし(1996):「山溪ハンディ図鑑6 日本のスミレ」山と溪谷社, 247p. 東京。
伊藤 洋編(1998):「1998年版 埼玉県植物誌」埼玉県教育委員

- 会, 833p. 浦和.
- 片野光一・吉井広始・須永 智・堀江延治 (1987): 植生, 「群馬県植物誌 改訂版」(群馬県高等学校教育研究会生物部会「群馬県植物誌 改訂版」編集委員会編), pp.33-132., 群馬県, 前橋.
- 北村四郎・村田 源 (1979): 「原色日本植物図鑑・木本編II」, 保育社, 545p. 大阪.
- 松沢篤郎 (1995): 植物目録, 「文化財総合調査 館林市の植物」(館林市教育委員会編), p.138-176, 館林市, 館林.
- 野口達也・安嶋隆 (1995): 北本州産カヤツリグサ科チェックリスト(2). すげの会会報 6 : 21-57.
- 大橋広好・初山泰一・大場秀章 (1989): バラ科, 「日本の野生植物木本 I」, 平凡社, pp.179-228. 東京.
- 大井次三郎 (1982): カヤツリグサ科, 「日本の野生植物III 単子葉編」, 平凡社, pp.145-184. 東京.
- 長田武正 (1989): 「日本イネ科植物図譜」平凡社, 759p. 東京.
- 関本平八 (1941): 栃木県植物総覧, 朝陽堂, 479p. 宇都宮.
- 諏訪の自然誌・植物編編集委員会 (1981): 諏訪の自然誌 植物編 諏訪教育会, 692p. 諏訪.
- 戸部正久・里見哲夫・島野好次 (1968): 群馬県の高等植物目録, 「群馬県植物誌」(群馬県植物誌編集委員会編), pp.15-160., 群馬県高等学校教育研究会生物部会・群馬生物教育研究会, 前橋.
- 戸部正久・里見哲夫・島野好次・須藤志成幸・松澤篤郎 (1987): 群馬県自生高等植物目録, 「群馬県植物誌 改訂版」(群馬県高等学校教育研究会生物部会「群馬県植物誌改訂版」編集委員会編), pp.153-393., 群馬県, 前橋.

Abstract

On some unrecorded plant species in Gunma Prefecture.

OHMORI, Takehiro

Gunma Museum of Natural History : 1674-1, Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma, 370-2645, Japan

Some herbarium specimen which had not been recorded in Gunma Prefecture were found. *Fuirena ciliaris* (L.) Roxb. was collected at Tatebayashi in 1922 by Naotsugu Kurihara. This plant is thought extinct in

Gunma Prefecture. *Spiraea salicifolia* L., *Viola grypoceras* A. Gray var. *rhizomata* (Nakai) Ohwi, and an exotic grass, *Bromus inermis* Leyss. were collected in Tsumagoi Village by Atsuo Takizawa.

Key words : Gunma Prefecture, Herbarium Specimen, Unrecorded